

平成 26 年度事業報告書

平成 26 年 8 月 1 日から平成 27 年 7 月 31 日まで

特定非営利活動法人クリオン虹の基金

1 事業の成果

*以下の事業を実施した。

- (1) ホームページの開設のための議論の結果は、通常総会において実施の承認が得られた。当該ホームページは、平成 25 年 11 月 1 日から開設している。

(<http://rainbow.culion.jp/>)

- (2) ハンセン病問題の啓蒙活動として、学校教育(11) 医療(3) 福祉(2) 等、合計 16 箇所で開催講演を行った。具体的な箇所については下記を参照のこと。
- (3) 門屋理事が講演した中学校で、各家庭に回覧されている学校だより、「2 学年・ハンセン病について学習を深めました」との記事が記載された。地域住民とのつながり(学校だより)と、啓蒙活動の拡がりに成果があった。(後記「感想文」)
- (4) 門屋理事が、中学校の教諭と生徒を、草津の栗生楽泉園・重鑑房資料館へ引率案内(資料)
- (5) 佐久総合病院「国際保険医療科」主催の第 5 回グローバル カフェが平成 25 年 9 月 25 日に開かれた。その会議にフィリピン大学医学部レイテ分校のバディー分校長が参加されており、伊波、門屋・竹内理事、通訳に遠藤会員が同席し、交流が行われた。

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名 (定款に記載した事業)	具体的な事業内容	(A) 当該事業の実施日時 (B) 当該事業の実施場所 (C) 従事者の人数	(D) 受益対象者の範囲 (E) 人数	事業費の金額 (単位：千円)
(1) この法人の目的に賛同する個人・団体等から寄せられた浄財を、サンバリ財団に寄付し、フィリピン国立大学レイテ分校から推薦された学生に、奨学金を授与する事業及び教育環境整備支援等の事業	*ホームページを通じて事業の啓蒙活動や寄付を募った。 *学校・医療・行政機関等からの依頼により、ハンセン病問題への啓蒙講演を実施した。	(A) 平成26月年度 (B) 主たる事務所 (C) 5 人	(D) 不特定多数 (E) 10 人	220
	*サンバリ財団に寄付を行った。	(A) 平成27年3月30日 (B) 主たる事務所 (C) 2 人	(D) フィリピン国立大学レイテ分校から推進された学生 (E) 不特定多数	1008
(2) 日本の医学生や医療関係者と、同校関係者の交流を深める事業	*本事業年度は、実施しなかった。	—	—	—

※ハンセン病問題を啓蒙講演した箇所

【伊波理事長】

上伊那医療生協、伊那医療生協中堅職員研修会、上田城西教職員支、長野大学、伊那医療生協中堅職員研修会、飯山市人権同和・企業人権教育講座、長野市立長野高等科学学校

【門屋理事】

長野市柳町中学校、上田市立塩田中学校、上田市立第六中学校、上田市立第三中学校、J A八ヶ岳南牧支所営農センター、上田市立第二中学校、上田市立塩田中学校、東御市立東部中学校、北御牧中学校

★人権教育講演会/門屋理事「今なぜハンセン病問題か」の感想から抜粋

(1) 中学2年・女性

人権教育で、ハンセン病問題について学んできた私だが、正直に言って、経験などまるでなく、身近に感じられなかったので、「知ろう」という意欲がわかなかった。自分が差別の対象になったりしていたので、気持ちは少なからず分かったりした。だが、それ故に小学校から人権教育は嫌だった。でも、今回のハンセン病問題で、人権教育にちょっとした関心がわいた。講演も最初のうちは「聞いているだけ」で、声が「届いていなかった」。それでも聞いている内に、私の心境も変わり、最後はハンセン病の歴史に感嘆し、その人達を助けている和子さんに感動した。

日本が差別の醜い国と言うのは痛感していた事だったが、それがもっと昔に、世界から非難を受ける程に醜いと知った時は、泣きそうになった。そう考えると、今は良い時代で、皆そういった事を理解しつつある。医学技術も発達し、知識も増えている。そういった状態じゃなかった昔の差別は、どれ程までに辛かったか、計り知れなかった。

これからの未来、まだまだこう言った差別が続いていく事は分かっている。そんな現実を「変えたい」と思った。自分の出来る限りの事はしたい。そう思える様になった。まずは、クラス内から、身近な所から変えられたら、そう思わせてくれた門屋和子さんに感謝しました。

(2) 中学3年・女性

ハンセン病患者さんが、山奥に隔離される話は、とても残酷なことだと改めて気づきました。山奥の小屋で獣の音が聞こえることは、とても怖いことなのに、それよりも村人が来て、バレてしまうことの方が恐ろしいなんて、よほど恐ろしかったんだと感じました。山奥の建物に入れられ、故郷の楽しみや温かみを感じられない、寂しい所で暮らしていたみなさんの悔しさが分かるような気もしました。

前に学習した、長峰利造さんや、パワーポイントに出てきた人のように、ハンセン病にかかっている事実を受け止め、それと向き合っていく、強い心があるので同情はしません。そんな環境で暮らしていた人は、差別されるより、敬うべき方たちだと思いました。彼らは、私の知らない故郷への思いやり、人の温かみを知っているのですから。

「ふるさとの人たちが、自分の手をにぎってくれるのが夢」なら、私は、力いっぱいぎりしめてあげたいと思いました。たくさんの悲しみを生んだ、ハンセン病が治る薬が開発されて、とてもうれしいことだと思いました。ハンセン病はうつらない病気だから、もうすぐなくなると思っています。早くなくなってみんながふるさとに帰られたらいいです。